

『型式論の実践的研究Ⅰ』正誤表

下記の論文には誤植があります。以下のように訂正をお願いいたします。

「まえがき」『型式論の実践的研究Ⅰ』（正誤表）

21行目 「考古学に固有な方法論であった」→「考古学の固有な方法論であって」

「猪鼻城跡で検出された古墳群について—都川流域の首長を探る—」『型式論の実践的研究Ⅰ』 pp.86 - 105（正誤表）

89頁 8行目 「吉田は」→「武田は」

95頁 8行目 「伴うような表現したことを」→「伴うような表現をしたことを」

95頁 下から2行目 「異物」→「遺物」

102頁 補註7の7行目 「年代間」→「年代観」

102頁 補註11の1行目 「依存」→「遺存」

『型式論の実践的研究Ⅰ』正誤表

下記の論文には誤植があります。以下のように訂正をお願いいたします。

「諸磯 c 式土器の成立と土器情報の伝達」『型式論の実践的研究Ⅰ』 pp.1 - 11 (正誤表)

| | | |
|------|----------|---|
| 1 頁 | 下から 5 行目 | 「諸磯 b 土器式」→「 <u>諸磯 b 式土器</u> 」 |
| 6 頁 | 25 行目 | 「が存在する (第 2 図 10) 土器の」→「が存在する (第 2 図 <u>10</u>)。土器の」 |
| 6 頁 | 27 行目 | 「縦位矢羽根根状文」→「 <u>縦位矢羽根状文</u> 」 |
| 9 頁 | 4 行目 | 「その次の類の変化してしまい」→「その次の類に <u>変化してしまい</u> 」 |
| 10 頁 | 補註 4 | 「披露されている (鈴木敏 1988)」→「披露されている (<u>鈴木敏 1988</u>)。』 |

「出野尾洞穴遺跡出土土器の検討」『型式論の実践的研究Ⅰ』 pp.12 - 33 (正誤表)

| | | |
|------|-----------|--|
| 20 頁 | 9 行目 | 「決着が着く」→「 <u>決着が付く</u> 」 |
| 21 頁 | 2 行目 | 「新潟県小重遺跡例のよう主文様」→「新潟県小重遺跡例の <u>ように</u> 主文様」 |
| 22 頁 | 2・3 行目 | 「出野尾貝塚」→「 <u>出野尾洞穴遺跡</u> 」 |
| | 下から 8 行目 | 「判断しにくい ³⁾ 」→「 <u>判断しにくい²⁾</u> 」 |
| 23 頁 | 下から 8 行目 | 「接触、あるいは影響下」→「 <u>接触、あるいは影響下</u> 」 |
| | 下から 6 行目 | 「(赤潮・三上 1994)」→「 <u>(赤塩・三上 1994)</u> 」 |
| | 下から 4 行目 | 「主文様の渦巻を中心から文様帯を」→「 <u>主文様の渦巻の中心から文様帯を</u> 」 |
| 24 頁 | 22 行目 | 「凝縮したようなもの」→「 <u>凝縮したようなもの</u> 」 |
| 28 頁 | 下から 14 行目 | 「未だ追求の足りない」→「 <u>未だ追究の足りない</u> 」 |

「那須塩原市草刈道下遺跡の複式炉と土器」『型式論の実践的研究Ⅰ』 pp.34 - 46 (正誤表)

| | | |
|------|--------------|--|
| 34 頁 | 4 行目 | 「行われた遺跡に対して」→「 <u>行なわれた遺跡に対して</u> 」 |
| | 下から 10 行目 | 「大田原中学校」→「 <u>大田原中學校</u> 」 |
| | 下から 2 行目 | 「八幡 1939 : 31」→「 <u>八幡 1941 : 31</u> 」 |
| 35 頁 | 2 行目 | 「大田原中学校」→「 <u>大田原中學校</u> 」 |
| 36 頁 | 18 行目 | 「槻沢遺跡 (1)・井口遺跡 (5)」→「 <u>槻沢遺跡 (第 1 図 5)・井口遺跡 (第 1 図 1)</u> 」 |
| 40 頁 | 2 行目 | 「器厚約 7cm」→「 <u>器厚約 7mm</u> 」 |
| 41 頁 | 下から 1 行目 | 「長山 2010 : 第 7 図 27、第 6 図 37」→「 <u>長山 2010a : 第 7 図 27、第 6 図 37</u> 」 |
| | 第 3 図 | 「1a・1b=縮尺不同」〔を追記〕 |
| 42 頁 | 補註 2 の 2 行目 | 「學術學術技藝」→「 <u>學術技藝</u> 」〔重複している「學術」をトル〕 |
| 43 頁 | 補註 11 の 6 行目 | 「第 9 號爐」→「 <u>第 6 號爐</u> 」 |
| | 補註 13 の 3 行目 | 「〔長山 2010a : 補註 105〕①小稿とも」→「〔長山 2010a : 補註 105〕。①小稿とも」 |
| | 補註 25 の 4 行目 | 「〔大和久・埜 : 470〕」→「〔大和久・埜 <u>1972 : 470</u> 〕」 |
| 44 頁 | 引用・参考文献 | 「内山謙治 1952 「槻沢遺跡發掘・況」」→「内山謙治 1952 「 <u>槻沢遺跡發掘概況</u> 」」 |
| 46 頁 | 引用・参考文献 | 「松村 瞭・八幡一郎・小金井良精 1932 『下總姥山ニ於ケル石器時代遺跡貝塚ト其ノ貝層・下發見ノ住居址』」→「 <u>遺跡貝塚ト其ノ貝層下發見ノ住居址</u> 」 |
| | 図版出典 | 「〔上野 1987 をもとに〕」→「〔 <u>上野編 1987 をもとに</u> 〕」 |

「千葉県館山市安房神社洞窟出土縄紋土器覚書」『型式論の実践的研究Ⅰ』 pp.47 - 56 (正誤表)

| | | |
|------|-----------|--|
| 47 頁 | 下から 8 行目 | 「伺える」→「 <u>窺える</u> 」 |
| 48 頁 | 下から 14 行目 | 「一・二寸」→「 <u>一尺二寸</u> 」 |
| 50 頁 | 4 行目 | 「2 次的」→「 <u>二次的</u> 」 |
| 56 頁 | 引用・参考文献 | 寺門義範ほか 1979 『千葉県夷隅郡大多喜町堀之内上の台遺跡 房総半島における縄文時代晩期遺跡の研究』夷隅郡教育委員会〔を参考文献に追記〕 |

『型式論の実践的研究Ⅰ』正誤表

下記の論文には誤植があります。以下のように訂正をお願いいたします。

「オホーツク文化」と擦文文化の接触、同化・融合説『型式論の実践的研究Ⅰ』 pp.106 - 148 (正誤表)

- 107頁 23行目 「名取1948」 → 「名取1948a」
107頁 下から5行目 「見解の表明した」 → 「見解を表明した」
108頁 7行目 「オホーツク式」 → 「オホーツク式」
108頁 下から7行目 「D型(5・6)型の標本例」 → 「D型(5・6)の標本例」
110頁 18行目 「太い擬縄貼付紋のもの」 → 「太い擬縄貼付紋のもの」
114頁 18行目・143頁 8行目 「石附喜美男氏」 → 「石附喜三男」
115頁 12行目 「「おそらくは末期から」から」 → 「「おそらくは末期」から」
117頁 下から12行目 「(トビニタイ土器群Ⅱ:A)」 → 「(トビニタイ土器群Ⅱ:第ⅢA)」
118頁 1行目 「「融合形式」された土器群」 → 「「融合形式」とされた土器群」
118頁 10行目
擦文C(24~26) → (24~25)、D(27~28) → (26・27)、藤本e群(20~23)
→ (20~22)、擦文D(27・28) → (28・29)、擦文E(29・30=31) → (28・29=30)
118頁 下から11~12行目 「石附喜美男」 → 「石附喜三男」
118頁 下から12行目 「大井晴男」 → 「大井晴男氏」
119頁 第3図 菊池(～) → 菊池(1970~1972a)
121頁 1行目 「下別遺跡」 → 「下鑑別遺跡」
122頁 7行目 「ニツ岩遺跡」 → 「ニツ岩遺跡」
129頁 13行目 「おおらく」 → 「おそらく」
130頁 下から16行目 (1+2→3・4→+) → (1+2→3→+)
143頁 12行目 「2003年に至る」 → 「2013年に至る」
143頁 16~17行目 「なかどうか。具体的に」 → 「ないのかどうか、具体的に」
145頁 引用・参考文献
「児玉作左衛門」 → 「児玉作左衛門」、「熊木俊郎」 → 「熊木俊朗」、
犀川会「民俗工芸研究会」 → 「民族工芸研究会」
澤井 玄「同刊論文集行会」 → 「同論文集刊行会」
山内清男「『日本原始美術』1(縄文土器)」 → 「(縄文式土器)」